

## 「人は人に出会うことによって

### 人になるのです PART 1」

-----愛と承認について-----

園長 高杉美稚子

今年からドリカムタイムが始まりました。そのことについては、4月号、そして今月号のP15.16に書いておりますが、なぜ、私が長い間、この保育をいつか実践したいと考えていたかについて、今一度「子育て」について触れながら、3ヶ月に渡って保護者の方ともに考えてみたいと思います。

私は、子どもをどのように教育するかという最も大切なことは、いかに「自己肯定感を持つ子どもに育てるか」の一点にかかっていると考えています。

特に、4歳から12歳のころの心の発達の課題は「自己有能感の確立と自己肯定感の定着の時期」です。「自己肯定感」とは自分で自分が好きになれることです。その為に私たちが行う教育は「自分のことを好きになれるようになる工夫を共にしてあげることである」事です。したがってこの時期は、子どもの長所や利点を伸ばすかかわりが最も重要です。感動を共に喜び、愛と承認の欲求を満たしてあげることが大切です。

そのための方法のまず第一は、園児であれ、職員であれ、保護者の方であれ、その人の中にある良い部分を見つけ出していくことです。

時として、人間は、その人の悪い部分、出来ていない部分ばかりに目が行ってしまいがちですが、悪い面の裏には必ず、いい面があります。又、いいと思っていることの裏にも悪い面が必ず隠されています。要はどちらに目を向けるかです。そして素敵だなあと思う方をいつも見て、口に出していくとその良い方にだけ、なぜか、磨きがかかってくるのです。私は20年の園長生活の中での、職員指導の時にいつもこの事を実感しています。そして、本人が気づいていなかったら、そのことを本人に気づいてもらうことも大切です。

「泣いているお子さんを困った子だ」とおっしゃる保護者の方にはいつも「お家と違うということをしっかりわかる、素晴らしいお子さんですネ」といいます。「いつも、ポーっとしているのです」とおっしゃる保護者の方には、「しっかり回りを見て、外からは計り知れない感受性を内にためているかもしれませぬね」といいます。「私はここが出来ないのです」と落ち込む職員には、「自分のわからないところが見えているなんてすごいね。じゃ、山頂はもうすぐだね」、「また、失敗しました」と報告に来る職員には、「一度目は言える。でも度重なる失敗を自分に正直にちゃんと認め、報告できるあなたが一番すごいことだね」、「こんな母親でいることがいやなのです」というお母様には、「私のところに相談に来ようと思ってきてくださっていることだけで、素晴らしいおかあさんですね」といってから、その内容を聞きませぬ。自分のためだと思っていることにまず、気づくこと、それを正直に受け入れること。そしてためだと思っていることにもいい面があることに気づいてもらうことから、自分を好きになってもらうことを始めます。そうすると、必ず、変わっていきます。

自分を好きになれるということは、他者からの評価ではなく、自分で自分が認められ、自分に自信を持って生きることが出来るということです。だから、自分を好きになれる方法、自分で自分に自信がもてるやり方があれば、基本的にはどんな叱り方、ほめ方でも私はOKだと思うのです。でもこれがなかなか難しいですね。

自分が好きになること、他者からの評価ではなく、自分で自分が認められ、自分に自信を持って生きることが出来るということを一口に言うならば「自立」ということになります。

この「自立」の考え方は幼稚園の「入園説明会のしおり」の中で、吉塚幼稚園の教育の根幹である3本の柱の一つであると、何度も保護者の方にはお話していますので、その意味についてはもう十分ご理解して頂いていることと思います。よく理解が出来ていないという方は、今一度、「入園説明会のしおり」に目を通して頂けますと助かりますが、であるならば、自分が嫌いな間は、自分が嫌いであることに気づいていない時は自立は出来ないということになります。ということは、やってはいけない教育というのは自分を嫌いになるような教育ということに言い換えればなると私は考えています。

では、本当の自立を成し遂げるために、他者評価ではなく自分のことを自分で認め、自分を好きになるには次に何が必要なのでしょう。

そのためには、人とのかかわりが、重要なのです。人は人の間でしか人になれないというのはここにあります。子どもにとって、初めて出会う一番の人とのかかわりは、まず、母親ついで、父親です。では、このかかわりの中でどういうことに気をつけて行けばいいのでしょうか。

私は、自分を認められるようになるためには、まず、1、親が精一杯の愛情を注ぐこと、2、その存在そのものを認めてあげること、だと考えています。

子どもが、自立するための1、親が精一杯の愛情を注ぐこととは、子どもが望むときに望むように、望むだけ行動でしてあげること。抱っこしてというときは、しっかり抱っこして、抱いてあげること、そうすれば、いつでも抱っこしてもらえると安心感と信頼感が出来ますから、十分満足して「抱っこして」とは言わなくなり、自ら、自立していきます。

抱っこが足りていないから、「抱っこして」と「もっともっと」と要求してくるのです。

そのほかの行動にも同じことが言えると思います。「でも、子どものその欲求のままに聞いていいの？」と思われる保護者の方もいらっしゃるでしょう。そのことについては来月号で「保護と干渉の違いについて」で詳しく述べることにします。

子どもが、自立するための2、存在そのものを認めるということは、ひも付きでない、無条件の認めが必要です。あなたが~~だから好き、がんばったからよ、ではいけないのです。なぜなら、この言葉の影には、~~じゃなかったら、愛してあげない、頑ばらなかったら、見捨てられるという裏のメッセージが伝わるからです。そこには安心感と信頼感はありません。だから生まれてきてくれてありがとう、あなたがいてくれることだけで幸せよ、という無条件の愛が大切なのです。いつもそうしていると思って知っている人でも、言葉にしたものを、紙に書いてチェックをしてみるとこの無条件で愛するということとはとても難しい事に気づかれるでしょう、どこかに何かの条件がチラッと見え隠れているのです。これは、又、逆に子どもの心に親からの「禁止令」として残っていきます。

やりたくないのに、なぜかいつもやってしまう自分の行動や、落ち込みをするときの自分の思考パターンを振り返ってみると、親からの「何々をしてはいけない」という「無意識の禁止令」が心に残っていることがあります。

例えば、常に「頑張ったら承認をもらえる」という行動で育てられると人は、「人に認められるように頑張らなくてはいけない」「サボってはいけない」というコアパターンを持ってしまいます。そして自己承認ではなく他者の承認を求めて、果てしなく、苦しむこととなります。

「人より優秀な子に育て」という行動で育てられると、自分より出来ない人の前では自信を持ち、相手を見下し、優越感に浸り、自分より出来る人の前では、劣等感にさいなまれるというコアパターンを持ってしまいます。相手が自分より優れているかどうかは気になり、それを超えて、もっとゆったりと、相手に関係なく、自分に自信を持って安定して生きていくことが出来なくなるのです。そして、いつも人と比べて、何かに向かってあせりつづけるのです。だから、良く出来る子が良いという発想で子どもを育てることは怖いことなのです。

結果としてよく出来るにこしたことはないけど、出来なくてもいいんだよ、出来ても、出来なくても大好き、出来なかったということがわかっていけばいいんだよ。わかっていたら、わかっているところからゆっくり始めればいいのかから、やることをいつ始めるかも自分で決めていいんだよ、という態度が大切です。そしてその自分を嫌いにならないで、出来なかったからこそいいことがあるという良い方に目を向けて、出来ないことも含めて、自分を受容してあげるといふ、無条件の愛と無条件の承認が大切なのです。

来月号では「保護」と「干渉」はどう違うのかということ、又友達のかかわりの中でどう育てるかということと共に、ドリカムタイムの意義の中で考えてみたいと思います。一足先にお知りになりたい方は、次の園長の教育心理講座で先にお話致します。どうぞご参加下さい。ご参加になれない方は次号をお楽しみに。

創立50周年を記念して、3月に「オカリナありがとうコンサート」を実施しました。保護者の心温まるメッセージが新聞に載りました。ご紹介して、今月号をお届けします。

## コンサートに元気もらった

主婦 梅崎 悦子

福岡市 35歳

娘の幼稚園で催された記念コンサートを鑑賞しました。

語りとおカリナ ピアノによる癒しの空間」とあるとおり、優しい透明な音色が心にしみわたり、異空間へ私の心を誘ってくれるようでした。

今の生活が重荷で何かしなければ「このままで終わりたい」と焦燥感にかられる毎日をただ過ごしていた私の心に春の風が、スッと駆け抜けていったのです。

何より私を元気づけてくれたのは、朗読「ラブ・ユウオーバー」。人を愛するといふこと、かけがえのない存在がいることの幸せ、その子たちを慈しみ育てているといふ満たされた思い、そして自信

明日から新たな気持ちでがんばっていける、二人の子どもたちを愛し育てる大役を、私は担っているんだという思いがわき起こってきたのです。

短いコンサートでしたが言い尽くせないほどの感動をありがとうございました。この思いを育児で悩んでいるお母さんや自信を失いかけている人たちに伝えたいと思います。

